

せんだい

sendai-city
chronicles
communication
paper.

市史通信

創刊号

仙台市博物館市史編さん室

百万都市仙台——過去から現在そして未来へ
仙台の歴史、開いてみませんか。



タクシーサービス

せんだい今昔

今の私たちにとって一番身近な交通手段と言ったらクルマでしょうか。けれども昔はマイカーを持つ家も少なく、よくタクシーのお世話になっていたものでした。

仙台で最初のタクシー業は、大正11年(1922)に始まったといわれていますが、残念ながらそれを裏付ける資料が少なく、はっきりとは断言できません。同じ交通機関でも、鉄道やバスは大きな事業で、国や県の許可が必要だったため、申請書や計画書、地元の人々の請願書などが多く作られました。それは今も貴重な資料として残っています。しかし、タクシーは国の認可がいらなかったことや、小規模経営だったことから資料が残らず、昔のことはほとんどわからなくなってしまいました。

そんななかで、ひよんなことから残された資料があります。バス事業の資料を調べていたところ、「Taxi」という文字が目飛び込んできました。「Authorization for Operation of Sendai-Camp

Schimmelpfennig Bus and Taxi cab service.」という書類です。これは昭和25年(1950)、進駐軍キャンプ・シメルフェニーと仙台市中心部を結ぶバス路線とタクシー営業の認可証です。帝産オート(株)仙台支店がバス路線を新設するときの認可申請書類の一部としてタクシーの貴重な資料が今に残されたのです。帝産オート(株)は当時、タクシーの一番のお得意さんだった進駐軍を、かなり独占できたわけですが、初乗り料金が100円の時代に1台20万円の乗客傷害賠償危険担保や、毎月キャンプに行つての車両点検義務など、負担も大きかったようです。ともかく、タクシーがバスとセットになっていたのが幸いして、当時のタクシー業のようすがわかる貴重な資料が残ることになりました。



タクシーが並ぶ仙台駅前 昭和初期(仙台市博物館所蔵)

市史ができるまで

『仙台市史』は仙台市が、市制施行100周年記念事業の一環として企画しました。30巻を15年にわたって発行していく計画です。

一冊の仙台市史ができるまでには、どんな仕事があるのでしょうか。ここでは、その作業の流れを追ってみましょう。



調査の基本は資料収集ですが、その方法はいろいろです。

- 文献調査** 図書館や博物館をはじめ、いろいろなところにある古い文書や書物などを調べます。
- 野外調査** 板碑の拓本をとることや、城跡の測量などがあります。
- 聞き取り** 形あるものだけではなく、人の記憶や伝承も大切な資料となります。



文章や写真を組み合わせてページを構成する作業を行います。誤字や脱字を点検して直す校正作業のほか、専門用語などを、やさしい表現にすることもあります。



仙台市内外の専門家150人以上の方が調査・執筆作業に携わっています。



本を一冊仕上げるのにかかる期間は、原則として5年です。

市史 Q&A

Q1 仙台市が「杜の都」と呼ばれるようになったのはいつ頃からですか？

A 戦前の仙台の街は、伊達政宗が慶長6年（1601）に湿地を開発して作った城下町がもとになっていました。城下町の大半を占める武家屋敷の広い敷地に樹木が植えられ、周囲の原生林と一体となって、仙台は緑にいろどられました。「杜の都」という呼称こそまだなかったものの、緑豊かな仙台の原形はこの時つくられたといえます。
「杜の都」という名称が用いられるようになったのは大正時代以後

で、昭和に入ってから、歌の歌詞にも登場するようになりました。戦災で緑が失われても、「杜の都」の復活をめざして戦後の仙台の復興が進められました。

Q2 仙台名物の笹かまぼこの起源は？

A 明治35、6年頃、仙台湾では、ヒラメの大漁が続きました。しかし、今と違って保存がきかず、たくさんとれても持て余してしまうことがありました。そんなとき、仙台の魚屋がヒラメを原料にした新しいかまぼこの商品化に成功したのが、笹かまぼこのはじまりとされています。
笹かまぼこという名称は伊達家の家紋「竹に雀」に由来するようです。

『市史せんだい』のお知らせ

『仙台市史』の機関誌「市史せんだい」が、現在vol.8まで刊行されています。特集記事として自然や交通など身近な話題を取り上げているほか、市史セミナーの様、史料紹介など内容満載です。お求めは仙台市博物館2階売店です。価格は各1冊900円。

※vol.1とvol.2は品切れとなりました。

vol.8では、特集「仙台の開拓と開発」と市史セミナー「石に刻まれた中世」の要旨などを掲載。



グリーンリースすなわち貸植木業は、最近現れた業種だと思いませんか？ところが、なんと明治28年(1895)に仙台でこの仕事を考えた人がいることが分かりました。

その人は松倉卯平といい、明治11年(1878)に仙台区長に任じられた松倉恂の息子です。園芸家で、宮城農学校の実習教員もしたと『仙台人名大辞書』に記されている人です。彼はその貸植木業開業についての広告案のなかに、次のように記しています。

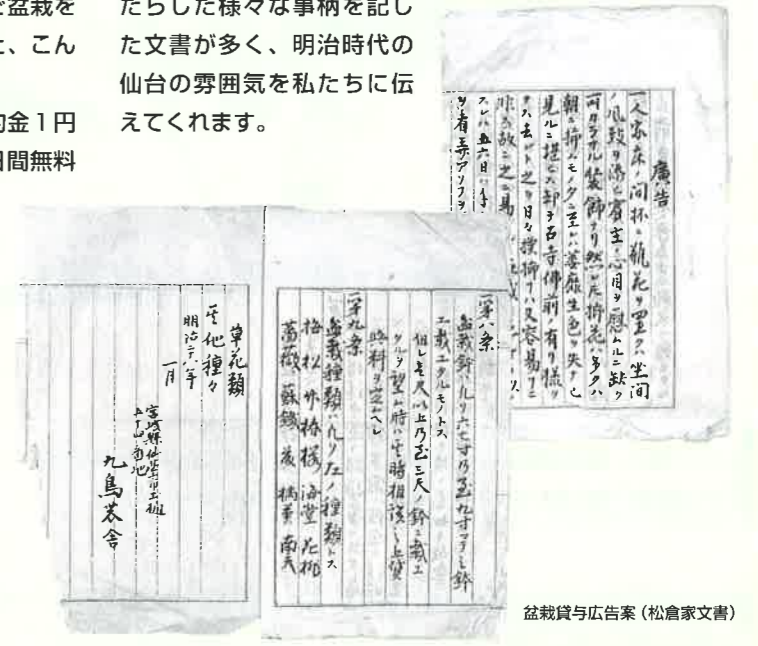
床の間などに花を飾っておくことは大変結構なことです。けれども、挿花はすぐに色を失い見るに堪えなくなります。その代わりに盆栽の花を置けば、美しい姿を長く保ち、見る人の心を慰めてくれます。そこで、有料で盆栽を貸与します。ご希望の方はぜひご利用ください。と、こんな調子です。

貸与の条件としては、1.盆栽借用の希望者は予約金1円を納める、2.予約をした方には盆栽を1個 100日間無料で貸与する（2個以上の場合には1個につき50銭を納める）、3.予約金を納めずに臨時に借りる時は1個につき1日5銭を支払うこと、4.盆栽はおよそ6、

7日に1回交換する、5.盆栽を壊した場合は相当する金額を弁償する、6.鉢の大きさは直径6〜7寸あるいは9寸（1寸は約3cm）と、それより大きいものを希望する時は相談に応じるなどと考えていたようです。ちなみに盆栽の種類は梅、松、竹、桜、椿、カイドウ、ハナモモ、バラ、ソテツ、フジ、タチバナ類、南天など種々。

実際にこの広告を配付し、盆栽を貸与したかどうかまではわかりませんが、今から100年以上も前にグリーンリースを思いついた人がいたとは驚きです。

このほかにも、松倉家文書には『特別編4 市民生活』で取り上げた地ビール関係の資料をはじめ、文明開化がもたらした様々な事柄を記した文書が多く、明治時代の仙台の雰囲気私たちに伝えてくれます。



盆栽貸与広告案（松倉家文書）

貸植木業

モノガたり 仙台

近刊のご案内

現在、編さん室では第11回配本『通史編1 原始』および第12回配本『資料編5 近代現代1 交通建設』を刊行準備中です。

『通史編1 原始』では、最近の発掘調査により出土した多くの資料をもとに、仙台地方における旧石器時代から弥生時代にかけての文化・社会の歩みを豊富なカラー図版とともに紹介していきます。

氷河期という厳しい自然条件のもと、生命を育んだ旧石器人の暮らし。独特な造形を誇る土器が生まれた縄文時代。そして稲作という生産手段を手にした弥生時代の人々の暮らしなどを、いろいろな角度から解き明かして行きます。

『資料編5 近代現代1 交通建設』では、明治以降の資料を

「交通」と「建設」の2つの視点から収録しました。人力車から地下鉄にいたるまでの交通の歴史を紹介し、また江戸時代につくられた城下町が、百万都市にまで発展をとげた都市計画の軌跡をたどります。

さらに各章の冒頭には解説と年表を付け、章扉に図版を用いるなど、従来の資料集のイメージを一新しております。

原始の仙台と近代以降の仙台。私たちの街の変遷をひもといてみませんか。

既刊『特別編2 考古資料』『特別編4 市民生活』もあわせてどうぞ。

読者のひるば

- ★ その時々々の領民の暮らし、信仰、生活の知恵についてや、そのような人たちの考え方がどのように政治に反映されたのかを知りたいと思う。
- ★ 私は図書館をよく利用するので、図書館で読みたいと思っております。
- ★ とても詳しく記されているので良いと思う。さらに、簡単に手に入り読める概略的なものがほしい。私はよく外国の人に仙台の歴史のことを聞かれるが、その人の方がよく知っている場合があり、恥ずかしく思ったことがある。
- ★ 縮刷版のようなものを発刊されることを希望します。

さまざまご意見ありがとうございました。今後、より利用しやすく、よりお求めやすいように工夫をしていきたいと考えております。

※これらの声は、1998年12月の「市史セミナー」会場で行ったアンケート調査の回答より抜粋したものです。

**好評
発売中**

**仙台の歴史を完全収録
各分野ごとと続々登場**

全体の計画(30冊)

- ◆通史編(9冊)
原始・古代中世・近世1~3・近代1~2・現代1~2
- ◆資料編(12冊)
古代中世・近世1~3・近代現代1~4・伊達政宗文書1~3・慶長遣欧使節
- ◆特別編(9冊)
自然・考古資料・美術工芸・市民生活・板碑・民俗・城館・文化芸能史・地域史

- 【資料編1】古代中世
- 【資料編2】近世1 藩政
- 【資料編3】近世2 城下町
- 【資料編10】伊達政宗文書1
- 【特別編1】自然
- 【特別編2】考古資料
- 【特別編3】美術工芸
- 【特別編4】市民生活
- 【特別編5】板碑
- 【特別編6】民俗



「資料編」各4,000円(税込み価格) 「特別編」は「板碑」のみ5,000円(税込み価格)、ほか各6,000円(税込み価格)

●発売元 宮城県教科書供給所
〒980-0021 仙台市青葉区中央二丁目9-22 TEL022-222-5052 FAX022-222-5056
県内主要書店で発売します。本の発送をご希望の方は、上記あてにお申し込みください。
なお、郵送の場合のお支払いは、配本に同封する振込用紙にてご入金ください。

●詳しくは、仙台市博物館市史編さん室までお問い合わせください。
仙台市博物館市史編さん室
〒980-0862 仙台市青葉区川内三の丸跡
TEL022-225-0814 FAX022-216-1830

既刊 Pick up

伊 達政宗がつくりあげた仙台。その歩みを多彩な資料で解き明かす『仙台市史 資料編 近世』。現在『藩政』と『城下町』の2冊が刊行されています。

『藩政』では、千代から仙台へと改名した資料や、藩最大の危機・伊達騒動に関する一連の資料、藩の苦しい財政を示す借金高の覚、戊辰戦争に備え洋式の武器を購入した時の領収書などで、仙台開府から幕末までをたどります。

付録は仙台領が一目でわかる正保年間製作の「奥州仙台領国絵図」。全体図1枚と部分図6枚で、村高などの細かい情報も読み取れます。

『城下町』では城下の暮らしを70点の資料で語ります。町役人が文書を作成するときの図入りマニュアルや商売に必要な顧客リスト、城下最大のイベントである仙台東照宮祭礼の行



「奥州仙台領国絵図」(部分)

列の書き立てなどを収録しています。
「仙台下絵図」「仙台年中行事絵巻」など、12の絵画資料をカラーで紹介した別冊付録も合わせ、城下の人々の生活や娯楽が見えてきます。江戸時代に生きた仙台人の息吹が感じられる2冊です。

編さん室より

あとがき
仙台市史編さん事業を皆様にご理解いただくための新しい試みとして、この広報誌「市史通信」を企画いたしました。いかがでしたか。これを機に、よりたくさんの方に「仙台市史」のことを知っていただければと思います。ご意見、ご感想など、どんどんお寄せください。

市史編さん室では、資料を探しています。古い文書や写真などございましたら、ぜひ編さん室までお知らせください。

Wanted!

**せんだい
市史通信**

創刊号

発行年月日 ●平成11年3月31日
編集・発行 ●仙台市博物館 市史編さん室
〒980-0862
仙台市青葉区川内三の丸跡
TEL 022-225-0814
FAX 022-216-1830